

水の物語 ～水と暮らしについて、兼六園で考える～【学習シート】



園内の水にまつわるスポット回りながら、水の大切さや水が作る景観の美しさを実感して、水を身近に感じ、水に関する課題を考えてみましょう。

江戸時代、全長約12kmにも及ぶ辰巳用水をわずか1年で完成させました。そこには高い測量技術によってつくられた約4kmの水のトンネルや、逆サイフォン（伏越）などの高度な技術が使われています。

【問①】 江戸時代、なぜこのような大掛かりな仕掛けを急いで作って、水を送る必要があったのでしょうか？ その理由を考えてみましょう

苔の美しさと種類の豊富さも兼六園の特徴のひとつ。苔は保水力が高く、まちの緑化に使用すれば都市型水害の発生を抑え、また異常気象の原因のひとつであるヒートアイランド現象を抑制する効果が期待されています。

【問②】 苔以外にも、持続可能な開発を行っていく際に、水とうまく付き合っていくアイデアが園内のそこかしこにあります。気がついたものを、その理由とともに書き出してみましょう。

そこかしこから聞こえる水が発する音にまで気を配って設計されている兼六園。せせらぎや噴水の音にいやされたという人も多いのではないのでしょうか。

【問③】 人間が生きていくためだけでなく、水はさまざまな恩恵を与えてくれ、とても重要な役割を担っています。どのようなものがあるか、園内で感じたことをまとめてみましょう

ポイント◎SDGsのゴール6「安全な水とトイレを世界中に」に取り組むことで、同時に解決できる他のゴールもあります（例／問②の苔なら、ゴール11、13、15番とも関係します）。それぞれの答えに、関連する他のゴールがあれば一緒に挙げましょう。

水の物語 ～水と暮らしについて、兼六園で考える～【学習シート】事後学習

園内の水にまつわるスポット回りながら、水の大切さや水が作る景観の美しさを実感して、水を身近に感じ、水に関する課題を考えてみましょう。

兼六園は、SDGsのゴール6「安全な水とトイレを世界中に」をわかりやすく学べる場所です。ここで学んだことを生かして、自分が住む身近なところから、水と人とのよりよい関係を見つめ直しましょう。



【問】 兼六園を訪ねる前に学習したことや、現地で経験できたことをもとに、自分が住んでいるまちの水にまつわる歴史を調べてみましょう。また、今ある課題を知り、より良い関係を築くために、今後取り組みたいと思ったことを発表しましょう。

ポイント◎SDGsのゴール6「安全な水とトイレを世界中に」を自分ごとにするために、身近な問題を考えるとともに、兼六園で実践した、“歴史から学ぶ”ことも意識しましょう。